

と思われた事の2点である。

その実験結果は、在任中に協力隊事務局とFAOのネパール本部に提出したが、この実験を通して感じたことは、技術的なアドバイスの難しさや啓蒙活動といった見えない働きかけの苦しさである。

おわりに

ネパールの造林は、現在2つの方法によって行われている。最初に植栽日より約1か月前に造林予定地に植穴を掘り、そこに植栽当日に現地に苗木を運び植栽する方法と、前者の植穴掘りは同様に行うが、植栽をする時に1日目はとにかく造林予定地点に苗木から苗木を運んでおき、2日目に植栽作業だけをする方法である。どちらもポリエチレンチューブを使用した苗木であるためにできる方法なのである。どちらも平均1日1人100~200本ぐらいが限度の様である。実質労働時間は6時間から7時間ぐらいである。

これからの海外林業協力への期待は、いままで述べてきたような問題を解決できる様な形で、住民サイドに立って、住民とともに協力しあえるような活動を模索していくことである。

新刊紹介

◎熱帯林とその環境・第2版 (LONGMAN, K.A. & JENIK, J.: Tropical Forest and its Environment, 2nd ed. Longman Scientific & Technical, 1987, x + 347 pp. 邦価約6,000円)

地球上に残されている貴重な森林資源のひとつである熱帯林はいま急速に減少しつつあり、乱開発を避け荒廃した林地を速やかに再生させることの必要性が呼ばれている。いっぽう、開発の有無にかかわらず残された熱帯林を適正に管理していくことの必要性も今後ますます増していくと思われる。熱帯林を取り抜いていく際、われわれにとって最も重要なのは熱帯林のもつ性質や機能を十分に理解することであろう。

本書は1974年に出版されたものにその後集積された研究成果を取り入れて大幅に改訂されたものである(引用文献は480篇余)。本書の目的としては、“熱帯林に関して得られた生物学的情報を要約し、熱帯林を利用・管理する際それらがどのように関わってくるのかを提示する”ことが挙げられている。重点が置かれている研究分野は植物生態学、植物生理学などであり、対象とされているのは当然ながら熱帯林の主役ともいべき樹木である。本書は、熱帯林について現在どの程度まで明らかにされているのかを概観するのに適当なテキストブックのひとつといえよう。(小久保醇)